

長崎大学薬学部で行なった「米国ニューメキシコ大学薬学部学生の臨床実習」が、文教速報に掲載されました。

2024年3月4日～15日に長崎大学薬学部で行なった米国ニューメキシコ大学薬学部学生の臨床実習が令和6年5月10日(金)の、文教速報(9396号)に掲載されました。『文教速報』は全国の国立学校、独立行政法人等の動向・人事等を中心に週3回刊行されている情報紙です。

文 教 速 報 (第三種郵便物認可) 第9396号 - 13 -

米UNM学生が長崎大薬学部で実習

長崎大学では、米国ニューメキシコ大学(UNM)薬学部4年生2名が、日本の薬剤師の実態を学ぶための2週間にわたる実習を行った。この実習は昨年2月に提携された大学間学術交流協定の一環で実施した。

UNMの学生らは複数の漢方薬局やドラッグストアを見学し、長崎大病院薬剤部で研修を受け、漢方薬の製剤や離島での実習など、多彩なプログラムに参加した。留学期間の最終日には、学生交流会が開催され、長崎大学生による漢方薬に関する発表や、UNMの学生らの実習成果発表が行われた。

日米両国の薬剤師業務の違いについて、UNMの学生たちは、薬局での予防接種など、アメリカの薬剤師が行うこととの幅広さを実感した。一方で、日本の漢方や在宅医療に関する知識に興味を持ち、アメリカに持ち帰り、ニューメキシコの医療に貢献したいとの意気込みが語られた。



研修を受けるUNMの学生

今回学生らと一緒に来日したニューメキシコ大の武田准教授は、「ニューメキシコは、市街地から少し離れた過疎化が非常に問題になっている場所です。過疎地域の医療を改善していくために薬剤師ができることを考えるのは薬学部の課題の一つです。」長崎には離島があり、ニューメキシコと同じく過疎地域を抱えているという共通点があります。長崎の薬剤師が行っていることを学んで帰るのはとても有意義なことです。今後、お互いの大学・地域が持つ知を活かし交流を続けていき

たいと考えています」と語った。

交流を深めた日米の学生ら

